

「人権尊重の地域づくり～思いやりの心が通じる公民館～」

邑南町 井原公民館

1 井原地区の概要

井原地区は邑南町の北方に位置している。地区内には保育所と小学校がなく、隣の中野地区との境に東保育所と石見東小学校がある。

人口650人、263世帯、高齢化率45%。少子高齢化の進む地区である。

国指定名勝である県立自然公園の断魚溪は、濁川によって約1kmにわたって深く浸食されたスケールの大きい渓谷で、神楽淵など見どころに富んでおり、新緑の春から紅葉の秋まで楽しむことができる。

世代を超えたひととひとが繋がる、拡がりのある元気な里づくりをテーマに地域自主組織である「井原つながるプロジェクト」が平成25年度に立ち上がり、井原を知る勉強会など地区活性化の事業を実施している。

2 事業の趣旨

(1) 井原地区が抱えている生活課題

- ①個人主義の高揚（誰かがするだろう、当事者意識の低下）。
- ②地域社会の希薄化（思いやり、地域の絆、人との関わり）。
- ③少子高齢化（地域活動の衰退、空き家の増加）。

地区全体に元気がなくなってきたのではないかと不安に感じてきた。

(2) 人権学習の充実

2020年東京パラリンピックにおいて、フィンランドのゴールボールチームの事前合宿招致に向けて邑南町教育委員会が取り組んでいる。このことは視覚障害・多様な文化・多様な人たちがキーワードになってくる。この事業は、人権感覚を磨くチャン

スであり、浸透させるチャンスでもある。

「人権とは人づくり」。人権学習を通じて公民館が果たす役割は、当事者意識を高めることと思いやりの心を育むことである。

3 具体的な取組内容

(1) ハーモニカ演奏の鑑賞会

楽しみながら学ぶ、集うきっかけづくり、世代間交流。講話とDVDの上映（目が見えなくなった経緯とその後）を交えながら、ハーモニカの演奏を鑑賞する。



ハーモニカ演奏の鑑賞会

(2) 公民館活動推進協議会委員の研修会

正しい知識を学んで人権感覚を高める・広める。人権同和教育主任（石見東小学校教諭）による部落差別解消推進法と児童が学んでいる人権学習を学ぶ。



公民館活動推進協議会委員の研修会

(3) アイヌの歴史と文化を学ぼう ～アイヌ文様の刺繍エコバッグ作り～

趣味と特技を生かしながら学ぶ。アイヌの歴史と伝統文化について講話を交えながら、アイヌ文様の刺繍エコバッグを作成する。



アイヌの歴史と文化を学ぼう

(4) 人権学習講演会

～ありのままのわたしを生きるために～

他人の価値観に振り回されない。多様な性を生きるということは、正しい知識を学び、地域へ広める。



人権学習講演会

4 評価と成果

(1) 評価と成果

思いやりの心、支え合う思いが教化され、波紋のように広がっていく。視覚障害に対して合理的配慮の意識を高める。差別や人権侵害を許さない・見過ごさない人づくり。環境保護の実現、住みよい環境づくりに取り組む。相手を尊重する意識が高まる。多

様な人・文化への偏見を解消していく。意識が変われば地域が変わる。

(2) 住民の変容

点字ブロックを意識する。点字ブロックの上に物を置かない。継続して学習する意欲が高まる。言動や意識などあらゆるハラスメントの解消に取り組む。伝統行事への参加者が増える。

5 今後の課題と見通し

(1) 井原地区が目指す姿

人権意識が基盤にある地域（共生づくり・関係づくり）

①誰もが安心して豊かに暮らせる地域

差別や人権侵害、様々なハラスメントを許さない、見過ごさない。

②話し合いができる地域

話し合いができることが地域課題。互いを思いやる心といたわり合う心を育む。

③みんなで取り組む地域

関わり合うことが地域づくり。みんなで学ぶことで社会の障壁を取り除く。差別や偏見は人為現象なので必ず人間の手でなくせる。

(2) 今後の課題

続けていけばどのような地域になるのか、直接的な成果（変化や効果など）を数値にすることは難しいが、誰もが安心して利用できる公民館を目指し、今後も継続して学習を深めていく。人権教育はまちづくりという視点で、何かの講座の中で人権学習の要素を取り入れ、自分たちの気づきを求めて学習を積み重ねていきたい。

（文責：井原公民館 野田嘉彦）